（様式）

令和2年度　学校評価　学校関係者評価書

学校名	三木市立別所中学校

1 学校教育目標

夢と感謝の心を持ち　知・徳・体の力をつけ　自立して共に生きる生徒の育成

(1) 子どもたちの挑戦や自己実現を支える学校　　(3) 保護者・地域から信頼される学校

(2) 安心・安全で、規律ある学校

2 本年度の重点目標

(1) 確かな学力と進路を獲得する学習指導の充実　　(4) 特別活動における部活動・生徒会活動の充実

(2) 組織的な生徒指導の取組の展開　　(5) 保護者・地域との連携

(3) 命と人権を大切にする道徳・人権教育・特別支援教育の充実　　(6) 美しく、生活しやすい環境づくり

3 自己評価結果（達成状況）【 A：達成している　B：概ね達成している　C：あまり達成していない　D：達成していない 】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取組(達成）の状況	評価	改善の方策	学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
学習指導	① 学力向上のための工夫・研究 ② 放課後等を活用した学力補充	①　昨年度に引き続き三木市教育委員会の学力向上サポート事業に取り組んだ。新型コロナウイルスの影響により研究発表会は誌上発表となったが、可能な範囲で講師を招聘しての研修会を行った。授業の最初に学習内容を提示し、終わりには振り返りを行う、ペアや班学習で伝え合い教えあう、「主体的で対話的な深い学び」に至るための学習など、研究で得た知見を生かし、少しづつではあるが「主体的な学び」へとつながってきている。 ②　Step Up Time(放課後の補充学習)が定着し、国語、数学、英語を中心に計画的に進められている。事前に行った小テストの結果や、学習した内容が十分に理解できなかった生徒が自主的に参加している。英語の放課後学習であるJump Up Timeでは3年生の約半数の生徒が自主的に参加している。生徒の学習態度もよく、基礎学力も少しずつ定着してきている。また、3学期になるとの3年生が早朝から自習学習を行っている。	B	①　教材研究を積極的に行い、授業の組み立て、内容の精選を行う。生徒自身の学習状況を把握できるように振り返り方法を各教科で工夫し、次の学習へとつなげていく。「主体的で対話的な深い学び」に至るためにどうあるべきかについて、班活動等の工夫を中心に引き続き研究を行い、効果的な授業となるよう実践を積み重ねていく。また、家庭学習の時間を確保し、実りのある学習ができるよう、家庭・小学校とも連携し、学習習慣づくりに努める。 ② Step Up Time をさらに充実させ、ミニティーチャー等による効果的な学習方法を工夫する。また、長期休業中（今年度はできなかった）や早朝を利用した補充学習を引き続き行い、基礎学力を身につける。 　さらに、「みきっ子学習ガイド」や「学習の手引き」、「タブレットドリル」、「プリントひろば」等、タブレット端末を有効活用し、学ぶ目的を明確にし、学び続ける姿勢を身につける。	・自己評価および改善の方策は適切である。 　学力向上に関するアンケートでの肯定的評価は、昨年度より上がっていたり、よくあてはまる割合が増えている。数学科では新学習システムを活用し、クラスを二つに分けた少人数の習熟度別指導を行っている。また、英語科においても複数指導を取り入れている。生徒が学力の定着や向上を実感できるように、授業形態や学習指導法のより一層の工夫と研究をお願いしたい。 　放課後等を活用した学力補充でも、肯定的評価が上がっている。今後も引き続き、ノー部活デーや長期休業を利用した補充学習を行い、基礎・基本の学力の確実な定着をお願いしたい。 　タブレット端末が導入されたことにより、自分の学習面での理解度や課題を把握し、個々の生徒が見通しをもって自主的に学習できるような取組を期待する。また、家庭と学校が連携した学習習慣の定着化についても、継続した指導をお願いしたい。
生徒指導	① 小中連携による生徒の問題行動の減少 ② 関係機関と連携した不登校への取組	①　小中連携推進委員会の活動を核として、できる範囲での情報交換や相互授業参観、合同研修会、行事の参観、出前授業、体験授業、入学説明会等の取組を行った。部活動体験は新型コロナの影響により中止となった。また、学校のルールについて意見交換を行い、今後の指導について検討を行った。 ②　毎週不登校対策委員会を開催し、不登校対策に取り組み、個々の状況把握や対応について検討を行った。適応教室、子育て支援課、障害福祉課、学校生活支援教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し多様化する生徒に対し、個別の対応や支援方法について検討した。	B	①　来年度も小・中学校の職員が情報交換を密に行い、9年間を見通した一貫性のある指導を行う必要がある。また、教職員の交流だけでなく、児童生徒の交流による相互理解を推進する取組を充実させる。 ②　不登校問題については、その原因が多様化しており、個々の対応について情報交換を密に行う必要がある。それぞれに適切な支援を行うためにも、今以上に関係機関との連携を図り、様々な情報を得ながら支援方法を考えていく。	・自己評価および改善の方策は適切である。 　規範意識の定着に関するアンケート結果では、昨年度と比べて生徒の肯定的評価が少し上がっている。小・中連携教育の推進や学校、家庭、地域、関係機関との連携により、落ち着いた学校生活が送れている。 　不登校対策委員会を定期的に開催し、一人一人の実情に応じた対応を行っている。引き続き、生徒に寄り添った指導をお願いしたい。多様化する子どもたちの状況に応じ、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや様々な関係機関との連携を図りながら、子どもたちが楽しく安心して登校できる状況をつくっていただきたい。
道徳・人権教育	① 道徳教育の充実 ② 人権意識の向上	①　教科書に掲載されている読み物資料を中心に、毎時間の授業を充実させるための研修に取り組んだ。校内では、各学年で授業を実施する教員が入れ替わる「ローテーション授業」を実施し、互いに授業を参観して、授業力の向上と評価に向けての資料収集に努めた。 　また、全校道徳「震災に学ぶ」の授業に関して、各学年の実態と今日的な課題を踏まえ、用いる資料を検討し、授業を実施した。冬休みには、「心がやく」を家庭に持ち帰って保護者にも感想を書いていもらうなど家庭との連携にも努めた。 ②　全校生徒が、人権作文と標語の作成およびポスターの制作に取り組み、いじめ、児童虐待、コロナウィルスに関する人権課題、高齢者問題、障がいのある人に関する問題、戦争や平和等について考えることができた。 　また、PTA人権教育推進部会の部員を中心に、保護者も人権作文と標語の作成に取り組み、「差別をなくする輪をひろげよう」市民運動において、3年生徒の作文が奨励賞を、保護者の作文が佳作を受賞した。 　人権講演会を開催し、新型コロナウィルスに関する国内外の差別と人権および部落差別の歴史等について、生徒・保護者・職員が共に学び、不当な差別に気づくことや協力と感謝の大切さを改めて実感することができた。 　さらに、PTAハートフル講演会をとおして、グループで意見を出し合う「ブレーンストーミング」や目標設定における大切なこと等、今後の生活に活かすことができる多くの気づきを得ることができた。	A	①　道徳科の授業で学習したことが、生徒の日頃の言動にも現れる場面もしばしば見受けられる。今後も、毎時間の授業づくりに丁寧に取り組んでいくことや、講師を招聘し、授業力向上のための研修に努めていきたい。 　授業の中心のなる「対話的な学び」を通して生き方についての考えを深めるとともに、問題解決的な学習や体験的な活動など、多様な新たな指導方法の工夫と、生徒の実態に適した資料の検討・選択にも力を注いでいく。 　また、長期休業期間中に保護者の方に書いてもらっている感想を、学年通信等でフィードバックする取組も実施していきたい。 ②　人権学習で考え、学んだことが、実際の場面においても正しい判断がなされ、適切な行動ができるようにする必要がある。そのためには、人権教育資料を有効に活用したり、多様な体験活動を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に取り組んでいく。 　また、人権学習においては、生徒の実態を踏まえ、今日的な人権課題を取り上げる。自分で考えたり、互いの意見を伝え合う時間を設定し、生徒たちが主体的に考えるようにする。さらに、自尊感情を高める、多様な生き方の中から自らの生き方を考え、一人一人の個性や能力が活かせるよう、今後も職員が生徒とともに学ぶ姿勢を大切に人権学習を推進していく。	・自己評価および改善の方策は適切である。 　昨年と比べて、生徒の肯定的評価が上がっている。道徳科の実施にあたり、引き続き外部講師による研修や校内での授業研究等を行い、指導方法・指導力向上への研鑽を積んでもらいたい。また、兵庫県版道徳副読本「心がやく」を活用し、親子で資料を読んで話し合い、感想を書いてもらうなど、道徳教育の充実のために家庭と協力した取組ができている。 　人権教育については、生徒・保護者とも肯定的評価の数値が高い。今年度は新型コロナウイルスの影響を受けながらも、2学期に講師招聘による人権講演会・学習会を実施しており、人権作文・標語の作成やハートフル講演会においてPTA活動とも連携を図り、人権意識の高揚への取組は評価できる。 　今後も、人権教育を学校の教育活動全体を通じて推進して欲しい。中学生という多感な時期であるからこそ、うわべだけでなく、また優越感をもって人を見ることをせずに、自分を大切にし、他の人とともによりよく生きようとする態度や実践力を育成する。さらに、いじめやインターネット等による人権侵害を絶対に許さない土壌づくりに、引き続き尽力をお願いしたい。
特別支援教育	① 支援を要する生徒の理解と支援の充実 ② 保護者・関係機関との連携によ る情報の共有	①　特別な支援を要する生徒について情報共有を行うとともに、個別の支援計画・指導計画を作成し、必要に応じてケース会議を行った。また、特別支援教育指導補助員のサポートや見守りを常に行い、それぞれの生徒に応じた援助を行った。できる限り複数指導の体制を作り、支援の充実に努めた。 ②　支援を要すると考えられる生徒の保護者に対して本人の状況を伝えるとともに、有効な支援について話し合った。また、学校生活支援教員や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも連携を行った。さらに、関係機関に教育相談に行き、有効な支援方法について研鑽を重ねた。	B	①　授業内容の習得が難しい生徒に対しては、個々の状況に応じた通級指導や特別支援教育指導補助員の協力を仰ぐなど、新たなサポート体制を充実させていく。 　また、学校生活において支援を要する生徒に対しては、見守りや教育相談等を行い、それぞれの「困り感」や不安を軽減する支援を検討していく。 ②　配慮が必要な生徒やその保護者への支援について、個に応じた適切な関係機関を検討し、迅速に連携していくことを進める。生徒・保護者の願いをもとに、連絡や教育相談を継続しながら、多様なニーズに応じた教育を充実させる。	・自己評価および改善の方策は適切である。 　支援を要する生徒についての情報を教職員が共有し、個別の指導計画、教育支援計画を作成し、それに基づいたさまざまな取組が行われている。教員、学校生活指導教員、特別支援教育指導補助員等を含めた支援体制のさらなる充実をお願いしたい。 　引き続き、生徒・保護者への適切な支援ができるよう関係機関とも密接に連携してもらいたい。学校と保護者、関係機関が連携し、一人一人の教育的ニーズの把握、自立と社会参加を見据えたきめ細かく適切な教育的支援をお願いしたい。
特別活動	① 部活動の活性化 ② 生徒の主体的活動に基づく生徒会活動の活性化	①　試合に勝つことや作品を入選させることだけを求めるのではなく、それぞれの活動からよりよく生きるために大切なことを学習する機会を与えられるよう努めた。また生徒が自主的に活動し、仲間を大切にし、仲間と共に成長できるようにした。ノー部活デーを活用したり、計画的に休養日を設けるなど、生徒の健康面にも配慮した。 ②　今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、十分な活動は実施できなかったが、生徒会専門部会を中心に地道な活動を続けてきた。 　毎年２回行っている別所まちづくり協議会の方と一緒のクリーンキャンペーンは１回しかできなかったが、全校生徒の約半数の70名が参加することができた。	A	①　生徒自身の主体性を大切にし、教師と生徒が対話しながら活気ある活動になるよう努める。生徒数減少に伴い、部活動のあり方についても検討する。活動と休養のバランスが保たれるように、計画的に活動を行うことを引き続き行う。 ②　生徒の主体性を重んじながら、課題を考えさせ、現在の活動を見直し、より充実した学校生活を目指した指導を行う。限られた人数や時間の中で、効率よく行事などを成功させたのにどうすればよいかを考えさせ、リーダーシップをとり学校をよりよくしていこうとする意欲を養う。	・自己評価および改善の方策は適切である。 　部活動に関するアンケートでは、生徒・保護者とも肯定的評価の数値が高い。個性や能力、人間関係の育成において大切な部活動の充実とさらなる活性化をお願いしたい。また、部活動指針により適切に休養日を設けられている。心身のリフレッシュや家族とのふれあい、地域活動への積極的な参加も期待したい。 　生徒会活動については、今年度、体育祭・文化祭がなくなり、また地域の様々な行事が中止になるなど、十分な活躍の場がなかったことは残念である。例年の地域の行事における生徒会の活動も、地域の活性化や地域との重要なパイプ役を果たしている。今後、良き伝統を継承しつつ、新たな活動を創造し、活気溢れる生徒会活動にするとともに、その活動をさらに積極的に広報していってもらいたい。
保護者・地域との連携	① 通信・HP・懇談会等による開かれた学校づくり ② 地域行事への積極的な参加によるふるさと意識の醸成（地域 と連携した心豊かな生徒の育成）	①　学級・学年・学校通信等の発行およびホームページの更新により積極的な情報発信に努めた。新型コロナウイルス感染防止のため、部活動懇談会、オープンスクール（1回）を開催した。 ②　新型コロナウイルス感染防止のため、納涼大会、別所農業祭り、町民文化祭ができなかった。別所町まちづくり協議会と協力して１回のクリーンキャンペーンを行った。生徒会役員がリーダーシップを発揮した取組が行われており、より多くの生徒が自主的に参加できるようになっている。	B	①　行事等がマンネリ化しないようにし、学校へ足を運んで良かったと思える取組を推進する。保護者や地域の方に、積極的に関わっていただく取組を工夫する必要がある。 ②　生徒会活動やPTA活動とも連携を図りながら、より多くの生徒が自発的に地域の行事に参加できるようにPRしている。また、部活動とも調整を図りながら多くの生徒が地域行事に参加し、「ふるさと別所」を意識させ、地域に支えられている学校であることを一層意識付けていく。	・自己評価および改善の方策は適切である。 　今年度は新型コロナウイルスの影響でオープンスクールの回数は減ったが、学校通信（別中ありがとう）、HP等で積極的に保護者・地域へ情報発信されている。今後も地域と一緒になった活動の機会を設けるなど、地域に根ざした学校運営、保護者・地域と連携した教育活動を推進していただきたい。 　地域行事に参加しようという生徒の意識は、年々上がってきている。別所町まちづくり協議会等と一緒に、地域の行事へ積極的な参加を呼びかけるなど、「ふるさと別所」を愛し、地域の一員としての誇りと自覚を持たせる指導をお願いしたい。
施設・設備の改善と維持	① 心癒される美しい環境づくり ② 整備された環境の維持管理 （積極的な清掃活動への取組）	①　整理整頓された教室環境を維持するため、生徒のロッカーの上に物を置かない,鞄をロッカーに入れるなどの意識は高い。また、教職員の教室環境整備に対する高い意識を継続していくことが大切である。 ②　時間一杯、分担区域で清掃に取り組むよう指導するとともに、教師も共に清掃活動を行った。昨年度よりも生徒、教職員の教室環境整備の意識が高くなっている。	A	①　教室の整理整頓や教室や廊下の掲示を工夫するなどし、落ち着いた美しい環境づくりをさらに推進する。教職員が率先垂範して、整理整頓を心がけ、きめ細やかな指導に取り組んでいく。 ②　清掃への取組や物を大切に使う意識を、さらに高めていくための指導を行う。特に美しく整備された環境を維持し、後輩につないでいく責任があるという意識を持たせることを重視していく。	・自己評価および改善の方策は適切である。 　生徒の肯定的評価は高い数値をさらに伸ばしており、しっかり清掃活動、ロッカーや机などの整理・整頓にも取り組めていることがわかる。 　大規模改修による環境整備により、美しくなった校舎を維持するため、今後も4S（整理・整頓・清掃・清潔）の指導に力を入れてもらいたい。そして、美しく安全で安心して生徒たちが学校生活を送れるように、学校環境の維持をお願いしたい。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・自己評価の方法は適切である
　自己評価の資料として三者（生徒・保護者・教職員）に実施した学校評価アンケートの結果を踏まえ、目標達成状況や取組状況が的確に自己評価できており、改善の方策においても明確かつ具体的である。
　また、アンケートについての考察も、昨年との比較がなされており、適切な評価方法であると考える。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価